



図書館 だより

図書館 ☎69・3706

今回は、蒲郡民生児童委員協議会会長の山下久夫さんに、お話をうかがいました。

一民生委員をされて、読書から寛容な心や優しさというものが育まれたと感じたことは—



この本がね、すごい。城戸真亜子さんの『ほんわか介護』。この人、義理のお母さんを見るんだけど、絶対に怒らないの。その日を楽しく過ごす方へ重点を置いた方が大事だということだね。いろんなアイデアなんかもあって、ほんわかしたるわけよ。読んでおって、そうだそうだって思うね。やっぱり本を読んで感動することが、優しさになってくるんだね。



『ほんわか介護』
城戸真亜子

一好きなジャンルの本はありますか—

それって、年とともに変わってくるね。食べ物と同じ。いろいろあるけど、今は、司馬遼太郎の『坂の上の雲』(全6巻)と山岡荘八の『徳川家康』(全26巻)だね。海外赴任の時もこれだけは持って行って、今までに4~5回は繰り返し読んだね。



『坂の上の雲』
司馬遼太郎

一図書館にまつわる話などは—

図書館へ行くのは私大好きじゃ。例えば、自分で1ページの文章を書いて、なかなか書けんでしょ。本って、作者が全身全霊を傾けて書き上げた、その人の魂の塊みたいなもんじゃないかね。図書館にはその努力の結晶が並んでいる。だからいつも行くと、観音様の像が立っているような、そういう感じがする。「御本」だね。非常にありがたいなって思うね。



「金魚の世界」

■借り物の魚

5月から6月にかけて水族館で金魚の展示会をしました。金魚は身近な魚なので大人から子どもまで人気があり、珍しい種類を集めたので好評でした。

この展示の目玉として、同級生の旦那さんが飼っている巨大金魚を借りてきました。大きさはなんと42センチ。「人サマの魚」を借りてきての展示なので、飼育にはかなり気を使いました。



水族館



学芸員 小林龍二

竹島水族館
☎68・2059

飼い主からは「これだけ立派なのはいない、一番かわいい子だし、もし死んだら土下座だから」と言われ、ハラハラしながら飼育しました。金魚にこれほど神経と念力を使つたのは初めてでした。水が濁ったり、呼吸数が多かったりすると心配で、休日でも様子を見たり電話で指示を出したりと大変でした。

■エンジェルス活躍

期間中は魚を貸してくれた同級生夫婦が様子を見に来たり、近所の竹内さんら「竹島水族館婦人部」が、家で繁殖させている金魚を持って来てくれたりと楽しい交流ができました。皆さんは、私

が個人的に「竹島水族館エンジェルス」と名付けた常連さんたちです。「エンジェルス」と私の中で暗黙に認められた女性性は、遠慮なく提案や意見を言うことが認められ、それは私にとって「館長からの命令と同じレベルの扱い」となります。

■金魚は奥が深い

竹内さんいわく、金魚は子どもでも飼える入門魚でありながら、大人が真剣に飼ってもゴールが見えない奥の深い魚で、ナメてはいかんらしい。色や形、ヒレの開き具合など細かく見ると金魚はものすごく誇り高き魚だそうです。地

域ごとに愛好会があり、蒲郡でも、毎年竹島の芝生公園で品評会があります。プロたちは優勝を目指し、春に繁殖させた子どもを夜中までかかって選別し、選抜された稚魚を大切に育てるそうです。エサの成分を研究するなど、水族館顔負けの飼育をしています。

竹内さんたちが持つて来てくれた選別漏れの金魚を水族館の裏側でコソコソと育てているのですが、どんな金魚であろうとも、かわいがっていると愛着がわいてきます。慣れてくるとエサをねだって水面に上がってきたりするので、本業の魚たちをそつちのけで観察してしまい、反省することもあります。